

16. けい光ランプによる色の演色性 (第5報)

岐阜大学芸

中野みち枝

色彩の重要性が認識された今日、特にデザインの面で必要な人工照明について考慮しなければならない。そこで既に第1報から第4報までけい光ランプによる色の演色性について報告をしたが、今回は特に視覚の問題に重点をおき、光源は(1)マツダ昼光色けい光ランプ、(2)マツダ天然昼光色けい光ランプ、(3)マツダ天然白色けい光ランプ、(4)マツダ真天然昼光色けい光ランプ、(5)マツダ真天然白色けい光ランプの五種を選び、試料は日本色彩研究所の標準色紙のうち、1-14-10, 8-19-6, 12-15-6, 16-14-6, 20-12-5を用い、先ず試料の大きさを視覚 1° - 1° , 1° - 2° , 1° - 4° , 1° - 7° , 2° - 1° , 2° - 2° , 2° - 4° 、 2° - 5° と定め実験を進めた結果、視覚 2° においてかなりよい結果がみられたので報告する。